

柱 3 地域を支える人材を支援する仕組みづくり

基本目標 3-①:さまざまな人たちが地域と関わる仕組みづくりを進めます

現 状

- 地域活動の担い手となっている方々を応援することに加え、幅広い区民の参加を促し活動のすそ野を広げていくことが重要です。
- 各地区で開催した地区懇談会で「次世代の担い手が不足している」という声が多く出されました。
- 担い手として幅広い区民の参加を得るには、支援する公的機関(区ボランティアセンター、地域ケアプラザ、区民活動支援センターなど)が連携を深め、協力することが求められています。
- 効果的な担い手育成につながるよう、活動の担い手に関する現状把握や分析、ニーズ把握等を行い、意欲のある人を実際の活動につなげていくための支援や取組が必要です。
- 地域ではさまざまな活動が行われており、その活動をさらに充実するためには、お互いが情報を共有したり、担い手同士がつながるような機会が必要です。

5年間の取組の方向性

1 地域人材の育成

- ① ボランティアや担い手に関する現状分析とニーズ把握を行い、効果的に担い手の育成につなげ、組織化していきます。
- ② 高校や大学、専門学校とコラボレーションした取組を行い、若い世代を地域のボランティア活動等へつなげていきます。

《具体的な取組》

- ★ ボランティアや担い手に関する現状分析とニーズ調査の実施(区、区社協、区民活動支援センター)
- ★ 地域活動やボランティアの実践講座等を大学や専門学校との連携事業として実施(区、区社協)
- ★ 高校や大学内でのボランティアセンターの設置の働きかけ(区社協)

2 地域を支える人材の活動支援

- ① 区ボランティアセンター、地域ケアプラザ、区民活動支援センターが連携して、ボランティアの相談支援やコーディネートを検討します。
- ② 地域で活動している人やボランティアなどの交流会や勉強会、研修等を行い、スキルアップにつなげます。

《具体的な取組》

- ◎ 区ボランティアセンター、地域ケアプラザのコーディネート機能の充実(区社協、地域ケアプラザ)
- ◎ 民生委員・児童委員、保健活動推進員などの交流会や研修会の充実(区、区社協)
- ◎ 担い手同士をつなぐ「かめっ子交流会」や「かめっ子全体研修会」、「こんにちは赤ちゃん訪問事業意見交換会」等の開催(区、地域子育て支援拠点「かなーちえ」)
- ★ サロンの運営の充実と連携を図るための「サロン連絡会」(仮称)の開催(区社協)

将来の目指す姿

- 1 あらゆる世代の人たちが気軽に地域と関わる仕組みができ、福祉保健活動に参加する人が増えています。
- 2 地域で活動する人たちがやりがいを持って活躍し、それぞれの活動がつながることで、地域活動が活性化しています。

事例紹介

●地域とケアプラザで作る担い手育成～地域づくりデビュー講座～

第2期地域福祉保健計画の中でも、地域における担い手の不足は課題となっていました。そこで地域ケアプラザと区役所が連携し、担い手の確保や地域の活性化を図ることを目的に、地域ケアプラザごとに「地域づくりデビュー講座」を実施しました。実施に当たっては、どのような活動が求められているのかなど地域のニーズを把握し、講座終了後のデビュー先を確保するなど、実際の活動に結びつくよう工夫しました。



沢渡三ツ沢地域ケアプラザで実施した「パン屋さんに学ぶパン作り教室」は、地域で行われているサロン「すみれカフェ」で、「コーヒーに添えてパンを提供したい」との民生委員・児童委員の声を受け、開催したものです。



講座の開催にあたっては、地域のパン屋さんに講師をお願いし、5回の講習・実習と自主練習を経て、「すみれカフェ」3か所にパンを持っていくことができました。現在も、継続してパンやお菓子を届けており、地域のボランティアとして活躍しています。

事例紹介

●担い手の広がりを目指して～白幡向町町内会とガーデン山自治会～

今回開催された地区別計画策定懇談会では、どの地区でも次の世代の担い手が課題という話が出ました。でも「役員はちょっと…」「気軽なところから活動を始めたい」などという声は大きく、区民意識調査でもその傾向は顕著に表れています。そのような中、若い世代を地域活動へ「つなぐ」取組を行っている自治会町内会があります。

白幡向町町内会では、夏祭りのお神輿の担ぎ手や年末の餅つきなどの応援等を子ども会に参加している親などを中心に声掛けし、「向町応援隊」を結成しました。30～50歳代の男性を中心にさまざまな町内会活動を助ける存在となっています。

また、ガーデン山自治会では、10年以上前から役員の高齢化が課題となっていました。そこで、地域の若い担い手が地域活動に入り込む機会として、自治会員の中からボランティアで活動してもらうために「ガーデン山催事委員会」を立ち上げました。現在では、男女合わせて25名が円滑に自治会催事をリード、サポートしています。催事が活性化すればするほど、若い世代が参加しやすい環境が生まれます。お祭りや催事を活用して、若い世代が活躍できる機会を増やす工夫も必要となっています。

地域には、勤めていて平日は時間の制約があるけれど、土日のちょっとしたお手伝い等には参加したいと考えている若い担い手がいます。少しの力も集まれば大きな力になります。みなさんの力を地域で発揮してみませんか。

柱 3 地域を支える人材を支援する仕組みづくり

基本目標 3-②：地域福祉保健活動を広げるための環境づくりを進めます

現 状

- ちょっとした困りごとを地域の中で解決するためには、地域主体の地域福祉保健活動は欠かせず、活動を立ち上げるための支援が求められています。
- ちょっとした事に困っている住民を支援している地区がありますが、その取組や活動を継続拡充していく必要があります。
- 定年後、自分の趣味や生きがいのための活動を始める人が地域の中にはたくさんいます。これらの活動を地域課題の解決に結びつけるような仕掛けが必要です。
- 地域における福祉保健課題が多様化する中、課題解決に向けた取組をさらに進めていくには、地域の力だけでなく福祉施設や企業などとの連携、協働が必要となっています。

5年間の取組の方向性

1 地域福祉保健活動の充実

- ① 身近な地域でちょっとした困りごと等を解決するため、ボランティアや市民活動者の登録や相談、コーディネートなどを行う地区ボランティアセンターの立ち上げを支援します。
- ② 趣味や生きがいにつながる活動を地域福祉保健活動に発展させるためのきっかけづくりや働きかけを行い、地域の課題解決につなげます。

《具体的な取組》

- ★ 担い手発掘を目指した連合自治会等との協働による地域人材マッチングの取組(区、区民活動支援センター)
- ◎ 地域住民による地区ボランティアセンターの立ち上げ及び運営支援(区社協)

2 事業者等との連携

- ① 企業の地域貢献の取組を応援するとともに、地域と企業が連携して課題解決に取り組む風土づくりを進めます。
- ② 施設や事業者の強みをいかし、住民と協働して地域福祉保健に関する課題解決に向けた取組を進めます。

《具体的な取組》

- ◎ 企業の地域貢献活動に向けた活動支援や参加の呼び掛けを行うための相談窓口(区社協)
- ★ 社会福祉法人の社会貢献の具体的な方法等を専門機関部会(各施設分科会)で検討(区社協)



将来の目指す姿

- 1 地域福祉保健活動が継続、拡充するための環境が整備でき、地域の課題に応じた様々な活動が広がっています。
- 2 福祉施設や事業者等と協働・連携することで、地域特性に応じた多様なニーズや課題の解決につながっています。

事例紹介

●地区ボランティアセンター(菅田&大口七島)の立ち上げの経過と活動状況

大口七島地区、菅田地区では地区社協の運営による地域住民向けのボランティアセンターが開設されています。両地区ともに、民生委員・児童委員がニーズの掘り起こしを行い、地区社協が依頼の受付、コーディネート、ボランティアの発掘や育成を行っています。区社協では、両地区の立ち上げに関わり、他市の地区ボランティアセンターの視察研修や市内の地区ボランティアセンターとの交流会を企画するほか、立ち上げ時の経費と運営にかかる経費について活動費を助成しています。



菅田地区では、菅田地域ケアプラザが共同事務局を担い、現地の下見を地区社協担当者と一緒にを行うほか、ボランティア講座を開催するなど、緊密な連携のもと、運営されています。

大口七島地区では民生委員・児童委員との密接な連携により活動が展開され、丁寧な活動が行われています。

両地区のボランティアセンターでは、定年退職後の男性も多数ボランティアとして活動しており、新たな活躍の場となっています。

事例紹介

●防災や清掃活動で地域貢献!「城南信用金庫 六角橋支店」

城南信用金庫六角橋支店は地元町内会の西神奈川二丁目町内会と「防災および地域活性化に関する連携協定」を結び、さまざまな地域貢献活動を展開しています。町内会で実施する防災訓練への参加や防災倉庫の設置への協力、また日ごろからの地域美化活動のほか、9月に行われる「わが町かながわマナー違反一掃作戦」に参加するなど、地域の一員として地域に根差した取組が行われています。



このほかにも、高齢の利用者が多い金融機関のため、通帳、印鑑の紛失や何度も来店するなどの認知症の兆候にいち早く気づき、対応に生かそうと「認知症サポーター養成講座」を開催し、多くの職員の方が参加しました。講座を担当したのは、区内で活動する認知症キャラバンメイトと六角橋地域ケアプラザのスタッフでした。

このようにさまざまな地域活動等に取り組み、地域とともに歩んでいただける企業を増やしていくことを目指しています。